Cotton Up

こっとんあっぷ　Vol. １４５

１２月、恒例の忘年会開催！！

豪華なお弁当で一年の労をねぎらいました！

わたげ・ふぁずともに、
利用者さんと飾りを作ったり、
会場飾り付けをしました☆

ウェルカムボードのレイアウト、
すべておまかせで作っていただきました！

フレッシャーズのおふたり、毎日
張り切って活動されています！
初めての忘年会も、楽しんでいた
だけたようで良かったです！

目次

・「T・D・S・N（Tanpopo Daily Support News）68」　＜２～４ページ＞
～初めの一歩を支える～
・「お～い！ごとーくーん！」　＜５ページ＞
・後援会のご案内・ボランティアの募集・編集後記（編集部）　＜６ページ＞

「T･D･S･N（Tanpopo Daily Support News）68」

初めの一歩を支える
～受け入れ支援で大切にしたこと～

当法人の生活介護事業所ふぁずは2022年4月に三浦市岬陽町に移転し、もうすぐ3年目を迎えようとしています。移転してから今まで、本当にたくさんの方々のご協力をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです！

この2年の間に、新たに3名の利用者さんがふぁずに仲間入りし、今では、ふぁずの一員として大活躍して下さっています。私はこの3名の利用者さんのうち2名の利用者さんの受け入れ準備について、中心的に関わらせていただきました。この責任重大でありながら、貴重な場面で実践したこと、その実践を経て、利用者さんから教わったことをまとめ、報告したいと思います。

【受け入れ支援とは・・・】

実践を報告する前に、まずは、たんぽぽの郷で行っている受け入れ支援の全体像についてお話ししたいと思います。

受け入れ支援を行う際に私たちが一番重要な事としているのは、事前の情報収集をどこまで丁寧に、細やかに行えるかという点です。利用者さんにとっては、通う場所が変わるだけの話ではなく、朝起きる時間から、出発時間、日中に行うことや関わる人、帰宅時間等、言ってしまえば、生活のすべてに変化が生じます。そのため、受け入れ支援をするということは、利用者さんやそのご家族の生活が大きく変わる場面に向き合い、支援するということだと思います。この大きな場面を支援するためには、その利用者さんやご家族は何を大切に考えているのか、その利用者さんは、どのような時に楽しさや嬉しさを感じ、また不安に思うのか等の情報収集することが大切だと考えます。たんぽぽの郷では、ご家庭や、それまで通っていた学校や施設の方々にご協力をいただき、ご本人が過ごしている様子や環境を事前に見せていただくために、家庭訪問や学校訪問を行わせてもらったり、基礎調査票という書面にて、情報を提供して頂いたりしています。このようにして得た情報を基にして、実際にふぁずで活動する時の具体的な環境（作業をする場所、休憩する場所、食事をとる場所などのエリアの設定）を考えたり、その利用者さんがふぁずでの一日を安心して過ごせるようにするにはどのような見通しを提供したら良いか（その人にあったスケジュールの作成）等を細かく職員間で話し合いながら考えていきます。そのようにして環境を作り上げた後は、別職員がモデルとなり、作り上げた環境や活動を実際に行ってみて、意見をもらい、必要に応じて、手直しを重ねていき、利用者さんの受け入れ初日を迎えるという流れで準備を行っています。

このように数か月に及ぶ準備の中で、私が実践したことについて、ごく一部にはなりますが、報告したいと思います。今回は環境面での実践と、伝達面の実践に分けて報告をします。

【実践報告　環境編！】

最初に報告するのは環境面についてです。今回、私が環境を作る時に事前に意識をしたことは、「職員にとっての当たり前」に気をつけることでした。これは当たり前のこと、説明がなくてもわかるだろう、と職員が思っていても利用者さんによっては、曖昧で混乱が生じてしまうかもしれない部分です。なぜ、私がこの点を意識したかというと、私自身（新しいことに緊張しやすい私・・・）の実体験として、

全く新しい環境に入ったときに、「これってどうすればいいんだろう・・・これでいいのかな・・・」と不安を抱く場面があったことを思い出したからです。この不安な気持ちを利用者さんに感じてほしくない、と考え、利用者さんの一日の行動を一つ一つ細かく分析した時に、実践した環境設定の一つが靴箱の場面です。ふぁずの靴箱は、扉を開けると、中が二段に仕切られています。これを見た時、私たちは無意識に、上に上靴を、下に外靴を置こうとします。しかしながら、過去には、靴箱を開けた時、どちらに靴を入れるか迷っているような行動をする利用者さんがいました。この時、付き添っていた職員が口頭や、指さしで合図を出すことで、大きな混乱には繋がりませんでしたが、緊張が張り詰めている時や、「よし、これからがんばるぞ」と思っている通所初日に、迷いが生じてしまう場面が発生することは、せっかく頑張ろうと来てくれた利用者さんとってやる気をなくす環境となってしまうかもしれません。このような経緯から、靴をしまう場面の提示として準備をしたのが（写真①）です。いざ、通所初日！靴を脱いだ利用者さんは靴箱の扉を開け、提示を見ると、「外靴はこっちか、オッケー！」と表情穏やかに言葉にされていました。

私はこの実践を通して、一つ一つはとても小さなことかもしれないですが、場面ごとを細かく分析して、その場面で利用者さんはどういう気持ちになり、どのような支援をすることで利用者さんが安心して行動できるのかを丁寧に考えることの重要さに気づくことができ、今後もその点を大切に、支援を考えていきたいと思いました。

写真①

【実践報告　伝達編！】

次に報告をするのは利用者さんへの伝達の準備で行ったことです。

ふぁずや、わたげに通所している利用者さんは、日中の活動として、ケーブルの解体作業や、外部からの受注作業に取り組んでいます。今回、私が受け入れ支援を担当させていただいた方々は学校を卒業してすぐに、ふぁずに通所をする新卒の利用者さんでしたので、これからふぁずで取り組む作業というのは、完成したら、それで終わり、というものではなく、社会に繋がっていくものであるということを伝える必要があると考え、行った伝達の実践です。

まず伝達の方法ですが、ここでも大事にしたのは、事前に収集した情報です。情報を読み込む中で、その利用者さんにはどのような内容、方法で伝達をするべきかを慎重に考えました。その結果、ある利用者さんには、ふぁずで行っている受注作業の完成品が商品となり、インターネットで販売しているところを見てもらうことで伝達をしました。またある利用者さんは自身で手掛けた完成品が社会に出て、回り回ってどのように変化していくのかを伝える文書を作成しました。

次のページの（写真②）は、文書を作成して伝達した実践の写真です。この文書を提示した利用者さんは、車が大好きで、車の種類のみではなく、車の内部の構造までとても詳しい利用者さんでした。その知識の量は職員顔負けで、車については、職員のほうが、この利用者さんに教わることもあるほどです。この文書はふぁずやわたげで、長年行っているケーブルの解体作業の完成品である銅線について、納品した銅線が、どのような使われ方をする可能性があるのかについて、その利用者さんの好きな車に関する内容と結び付けたものです。実際に利用者さんにこの文書を提示してみると、最初は初めての作業のためか、緊張感が見受けられていましたが、文書に目を通すと「そうなんですね」と反応してくださり「じゃあやってみようかな」とこの作業に取り組んでもらうことができました。

以降は、別の新しい作業を受注する度に「やってみたい！」と積極的に取り組んで下さり、ふぁずで大活躍をしてくださっています。私はその利用者さんの姿を見ると、作業の補助具や、やりやすさ、というところを支援していくことの重要さと同じくらいに、本人のやりたい、やってみようという意欲を引き出すということも、職員にとっては難しいながら重要な支援なんだなと学ばせてもらう出来事となりました。

作業や活動内容の伝達以外にも「社会人になること」についてもお伝えしました。これからは学生ではなく、一人の社会人として過ごしていくこと、また、社会人になることで、利用者さん本人が、自分自身のことを、今まで以上に選択する場面が増える、ということを伝えたい気持ちがあり、伝達の準備をしました。これらをできる限り、目でわかる形で伝えられるよう、ある利用者さんには、通所開始前に一度ふぁずに来ていただき、他の利用者さんが見守る中で、入職式を開いて、職員が作成した入職証書をお渡ししました。また別の利用者さんにお渡しした文書には、「あなたはこれから社会人です」という言葉に続けて「職員は〇〇さんのことを勝手に決めたりしません。一緒に相談して決めましょう！」という一文を記しました。現在では、この文書を実感してもらえるように、作業の内容や、数量等、利用者さん自身に選択をしてもらう場面をできる限り多く設定して、作業や活動を提供しています。

写真②

この文書が影響したかは不明ながら、ご本人の様子として、難易度の高い受注品に取り掛かったり、受注期日に追われる場面になったときに「これが社会人なんですね」と言葉にして、自身を鼓舞しながら、困難を乗り越えて下さっている利用者さんの姿が見られ、改めて、伝達をする重要性を私自身学ばせてもらいました。

以上が今回受け入れの場面で実践した一部の事例となります。

試行錯誤しながら準備をした環境ですが、実際に利用者さんに使ってもらうと、初日のうちに変更した方が良いことが見つかったり、数か月経過したところで、利用者さんの方から「もうこの提示はいらないです」と表出されることが見られることもありました。その時は、職員の見立てとは違ったものの、その利用者さんをさらに一つ知ることができた！と前向きに捉えて受け入れることも、支援には重要なことだと思います。

今回は受け入れ支援の場面についての報告をしましたが、大切なのは、受け入れる場面だけではありません。今回受け入れをした方々は、ご本人の努力と、ご家族等の協力もあり、無事に初めの一歩を踏み出していただけたかな、と評価させていただいていますが、その一歩目が今後も力強く歩み続けていけるかは、これからの支援にかかってくると思います。受け入れ支援で学んだことを大切に心に残し、今後の日常の支援に活かしながら、たんぽぽの郷の利用者みなさんの歩みに寄り添っていけるように、今後も精進してきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします！

杉浦健太

「お～い、ごとーくーん！！」

最近、月に送った探査機が、ピンポイント着陸を成し遂げたというニュースを耳にした。ピンポイント着陸とは、目標地点からの誤差 100m以内に着陸することだそうである。探査の目的が、どんどん具体的になってきているので、「着陸できる場所」ではなく、「着陸したい場所」、つまり探査対象の近くに着陸する技術が求められており、今回その技術を実証することが、一つの目的であったそうである。およそ 55mの誤差で着陸したとされ、時速 6,000 ㎞ほど出ているスピードを調整し、小型軽量の探査機が、起伏が多く、難しい場所に着陸したというから、日本の技術は凄いものである。なぜ月への探査が活発になっているのか。それは「水」の存在にある。水の存在を確かめたいと、世界の国々が探査計画を進めているそうである。水が見つかるとなれば、水は水素と酸素で出来ているので、水素は燃料に使い、酸素は人の呼吸に使える。水素を使って、ロケットの燃料や燃料電池を作ったり、酸素があれば、人が月に長く滞在でき、月にあるとされる資源の採掘にも繋がる可能性があるのだそうだ。

地球で水といえば「海」である。コスミック　フロント「海の起源をめぐるミステリー」というＴＶ番組によれば、地球表面の 7 割を占める海は、一体いつ、どのようにして誕生したのか、はっきり分かっていないそうである。太陽系の惑星のうち、表面に海があるのは、地球だけである。その理由は、地球と太陽との距離にある。太陽に近すぎると、水は気体となって蒸発し、遠すぎると、固体となって氷になる。地球は、水が液体として表面に存在できる、絶妙な距離にあるということだ。ところが、地球に水がどのようにもたらされたのかは、分かっていないのだという。惑星の材料となる塵（ちり）には、氷を含む物と含まない物があり、地球は含まない塵からできたと考えられているそうである。塵が氷を含むか含まないかの境界は、火星と木星の間にあり、その内側だと氷は全て蒸発してしまって、岩石質の塵になるというのである。そのため、火星より太陽に近い地球には、理論上は、海が出来るはずが無いのだそうである。

現在、海の起源の有力な説は、「海は地球の形成時に生まれた」ということのようだ。大まかに説明すると、およそ 46 億年前、宇宙に漂うガスや塵が集まり、中心に太陽が生まれる。原始の太陽を取り巻くように、ガスと塵の円盤ができる。地球は、小さな塵が集まり、合体し、それを繰り返し成長していく。この原始の地球に隕石が降り注ぎ、水を含んだ隕石の物質は、衝突の影響でガス化し、水蒸気大気が形成されていく。隕石落下が続く地球の表面は、高温のマグマの海。隕石によって運ばれた水の 9 割以上が、水素として地球の奥深く、コアやマントルに取り込まれていく。一方、現在より遙かに厚い層である、水蒸気大気の中では常時雨が降っており、隕石の衝突で、マグマの海となっている地表には、蒸発して落ちないが、隕石の落下が収まると、地表が冷え、大量の雨が地表に落ちてきて、海になったということである。その後、原始の地球の 1／10 ほどの質量の惑星が地球をかすめるように衝突し、およそ半分の大気は吹き飛ばされるが、海のほとんどが、水蒸気として地球に残った。地表は衝突の熱でマグマの海となったが、冷えると、豪雨が千年ほど続き、再び海ができた。その後も、激しい隕石の落下の時代があり、隕石内の有機物から熱によって水が作られ、追加されていった。こうして、地球は、太陽系で唯一水をたたえる惑星になったという説が、現在のところは有力だそうである。

これまで、海を巡っては、色々な説が出てきて検証されたようだが、一つの説だけで説明しようとすると、矛盾や行き詰りがあったようである。色々な要因が組み合わさって、水がもたらされたとすることで、説得力を増したそうである。例えば、地球の中心に近い、コアとマントルにも海の 40 倍以上の水が存在する発見で、計算上はもっと大量の海の水があるはずなのに存在しない理由が分かったり、有機物が高温になると水を生成する発見であったり。

何事も、一つの理論や方法にとらわれ過ぎては、矛盾や行き詰まりを生じるのではないだろうか。変えるところ、変えないところを、しっかりと見極めながら、いろいろな利用者の状況を受け止められる柔軟さが、支援者には必要だと感じつつ、今年も研鑽を積んで参りたいと思います。

施設長　後藤博行

たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、地域の一員として自分らしく生活していくために、必要な支援に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼　年 会 費	個人会員	１口	３，０００円
	団体会員	１口	１０，０００円

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵 便 為 替 口 座 番 号　　００２４０－９－１７４７４

郵便為替口座加入者名　　た ん ぽ ぽ の 郷 後 援 会

❀❀❀

ボランティアさん　募集中

わたげ・ふぁず・こっとんはうすで、自閉症を伴う方々と一緒に何か活動してみませんか？

作業の検品、余暇活動の支援、清掃等お手伝いをしていただける方がいましたら、ご連絡ください！！

〈連絡先〉

わ　た　げ　　電話:046－844－0038　（担当:いしい）

Ｅ－mail:　aaq40690@hkg.odn.ne.jp

ふ　ぁ　ず　　電話:046－854-5004　（担当:さかい）

Ｅ－mail:　faz2022@themis.ocn.ne.jp

こっとんはうす　　電話:046－852－8355　（担当:すずい）

Ｅ－mail:　tanpoponosato-ch-rg250e@jcom.home.ne.jp

♨☃♨

編集後記

寒暖の差はあるものの、日中は暖かく心地よい日も見られる今日この頃。
そして正月太りを解消していない私です。利用者の皆さんも長期休暇後は体重が増加している方が多いですが、私も一緒です。お正月っておいしい物が多いですよね。ついつい食べ過ぎてしまい、休暇後に太っていることに気づく事を毎年繰り返しています。ダイエット目的で始めたランニングも寒さに負けて、サボり気味。春と共に趣味を満喫しようとランニングを再開しました。
久里浜、浦賀、三浦でお見かけした時にはぜひ声を掛けてください。
日中は暖かい日もありますが、朝晩は冷え込むこともありますのでお体にはお気をつけください。

二ツ森

編　集　社会福祉法人　横須賀たんぽぽの郷　〒239-0824　横須賀市西浦賀３－１３－２１
TEL:046-844-0038／FAX：046-844-0036　Ｅ－mail：aaq40690@hkg.odn.ne.jp